

第1回情報ビジネス校統合形態検討委員会議録

日時 平成19年9月21日(金) 16:30~17:25
場所 遠野高等学校 会議室
出席者 高橋長一委員、柵山邦男委員、咲山正明委員、新田光志委員(代理:萩野幸弘)、
澤口正一委員、佐々木成造委員、阿部順吉委員、菊池祐幸委員、及川増徳委員 (9名)
県教育委員会事務局 鷹嘴文昭学校教育室高校改革担当課長、
主任指導主事 福士猛夫 (2名)
傍聴者 一般傍聴者 3名、報道関係者 2名

会議の概要

- 開会 <事務局:情報ビジネス校副校長澤口>
 - 第1回情報ビジネス校統合形態検討委員会を開会いたします。本委員会は県の審議会に類する会議として公開しています。会議終了後、会議の状況をホームページ上で公開することをご了解願います。これに伴い本会議を録音させていただくことをあわせてご了解いただきたいと存じます。
 - 岩手県教育委員会あいさつ <鷹嘴担当課長>
 - お忙しい中、遠野市教育委員会教育長様を始め委員の方々にお集まりいただき、誠にありがとうございます。
 - 日頃から本県教育に深いご理解とご支援ご協力をいただき御礼を申し上げます。
 - 平成17年7月19日策定の県立高等学校新整備計画後期計画に基づき、このたび遠野高校情報ビジネス校を本校に統合する運びとなり、統合の諸準備を進めることとなりました。
 - 情報ビジネス校は昭和23年遠野第一高校宮守分校として旧宮守青年学校校舎に開校し、翌24年には遠野高校宮守分校と改称され、さらに平成3年に現在の遠野高校情報ビジネス校という校名となり、来年で創立60年を数えます。
 - この間地域の皆様から多大なご支援をいただき地域に根ざした特色ある教育を行い、2300名を超える有為な人材を遠野地区はもとより県内各地そして全国へと輩出してきたという輝かしい歴史と伝統を誇っていることは皆様ご案内の通りでございます。
 - このたびの本校との統合計画に当たりましては、情報ビジネス校を支えてこられた地域の皆様の熱い思いを十分にふまえ、本校での新たな教育環境の充実とともに、今情報ビジネス校に学んでいる生徒達の高校生活の充実について今後とも皆様方の継続したお力添えをお願い申し上げます。
 - 活発かつ建設的な討議を期待申し上げます。
 - 情報ビジネス校統合形態検討委員会設置要綱について<澤口>
 - (次第の)次の頁にある(要綱中、)第3により委員が次のようになっています。
 - この要綱に基づきこの委員会を設置いたします。
 - 委員の委嘱及び紹介 <澤口>
 - 設置運営要綱第3の2に、検討委員会の委員は校長が委嘱する。と有りますので、校長よろしく願います。
- <校長>
- 検討委員会名簿にある9名に御委嘱いたします。委嘱状も配付してございます。
 - 自己紹介をお願いいたします。
遠野市教育委員会教育長及川、情報ビジネス校PTA会長佐々木、遠野高校PTA会長新田の代理副会長萩野(はぎの)、情報ビジネス校同窓会長と共に振興協議会会長の阿部、振興協議会の理事としてご案内いただきました菊池祐幸、情報ビジネス校副校長澤口、遠野高校本校副校長咲山、遠野高校事務長柵山、県教育委員会学校教育室高校改革担当課長鷹嘴、同じく高校改革の福士(主任指導主事)
- 委員長及び副委員長の選出<澤口>
 - 設置要綱第5より検討委員会に委員長副委員長各1名をおく。2項、委員長は校長とし、副委員長は委員長が指名する。と有りますので、校長お願いします。
- <校長>
- 委員長は校長である私高橋、副委員長は澤口正一情報ビジネス校副校長を指名します。
- 協議<澤口>

- ・ 設置運営要綱第6の2項より委員長は委員会の会議の議長となると有りますので、議長については校長の方でよろしくをお願いします。

<高橋長一委員長：議長>

(1) 統合形態について<澤口>

- ・ 統合形態について次第にあります3つの形。(資料による)
 - 年次統合。在校生は入学した分校で卒業する。
 - 年次統合。平成21年度に在校生が本校に移行する。これは現在の1年生が3年生になった時、本校に移行する。
 - 完全統合。平成20年度に在校生が本校に移行する。現在の1・2年生が来年4月、2・3年になるとき本校に移行する。
- ・ どの形態をとるかを検討していただきたい。

<高橋議長>

- ・ 現状報告。各方々からご意見を交えてもかまいませんのでご発言をお願いします。

<佐々木成造委員：情報ビジネス校PTA会長>

- ・ 報告と言うより私の意見という形になるうかと思う。形態が3パターンあるが、どの形態がはたして生徒達に最も適した形態なのか、中身が全く見えないので何とも言えない。
- ・ 現在私の子どもがビジネス校の1年生と2年生に在籍している。是非、の年次統合という形で、ビジネス校から卒業してもらいたい、卒業させたい、という思いで居ります。

<萩野(新田光志)委員：遠野高校PTA会長(代理は副会長)>

- ・ 先ほど会長から代理で出てくれと言われた。その中で統合に向けては特に申し上げることはない。粛々と進めていくことになると思う。
- ・ 現状として、クラスが1クラス減った状態で、部活とかいろんな部分で支障が出ている部分がある。統合することで人数が増えればプラスの部分があるが、情報ビジネス校の立場を考えれば一概にはそれだけでは喜べない。これは私見ですが、そういう気持ちであります。

<阿部順吉委員：情報ビジネス校同窓会会長>

- ・ 統合形態についての意見ですか。

<高橋議長>

- ・ はい、形態についていかがかと言うことです。

<阿部委員>

- ・ いずれにも賛成していない私が、一番とか二番とか三番とかはちょっと言いにくいのであります。
- ・ 同窓会としての立場で担当する中で、母校が幻のものになるということに対しては非常に遺憾に思っているところであります。
- ・ 以上を申し上げまして、という答えにはなりません。
- ・ 課長さんにお尋ねするが、たとえば がいいという大方の意見がありまして、結論的に だよ、最後はそうなるというようなことはありませんか。

<課長>

- ・ ございませぬ。統合の形態につきましては、在籍する生徒たちの気持ち、保護者の皆さんの気持ち、地域の声等を最大限尊重していくことで、教育委員会としては確認しております。仮に年次統合と言うことであれば、そういう形でいく。

<阿部委員>

- ・ そうであれば、一気に来年の春から宮守分校が無くなるというよりは、人数的に、子供の考えも尊重しなければならぬと思いますが、最終的には現在の1年生が3年生になったときに、後輩は居ないわけですから子供の気持ちも尊重してあげないといけないと思いますが、
- ・ 私個人的には年次統合がよろしいかなと思います。

<菊池祐幸委員：情報ビジネス校振興協議会理事>

- ・ 理事での案内だが、今までいろんな立場で何十回となく存続に関わる運動・陳情等を行って参りましたが、とうとう来るときが来たという思いです。形態については、地元に住むものとするれば1年でも長くこの学校がこの地域にあって欲しいという思いはありますが、
- ・ 生徒のことを考えれば同窓会長とは意見が食い違いますが、学業においても部活動においても即一緒になった方がいいのかなと思う。

<及川増徳委員：遠野市教育委員会教育長>

- ・ 生徒や保護者や地域の方それぞれに情報ビジネス校の本校統合には考え、思いがあると思います。統合計画という現実の問題を迎えている。
- ・ 生徒の立場を考えれば、情報ビジネス校を希望して入学をして、希望を持って意欲を持って勉強をしているということですので、希望した情報ビジネス校で終え、情報ビジネス校の卒業証書をもって学校生活を終えることの方が一番よいのではないかと考える。
- ・ 従って年次統合の 番がよろしいのではないかと考えるところです。

< 澤口委員：情報ビジネス校副校長 >

- ・ 生徒達は学校生活を一生懸命授業に取り組んだり、特別活動や資格取得に取り組んだりしています。3年生は就職試験を迎えまして、11年連続就職100%達成、進路目標達成にむけて頑張っている。私たちもそれに向けて一人一人丁寧に指導していきたいと思い、手をかけております。
- ・ 今回の件に関しまして、アンケートを採ってみました。1・2年生のトータルで が65%でした。3年まで入れると全体で70%の生徒が を希望しています。1年だけみますと71.4%の生徒が を希望しています。

< 高橋議長 >

- ・ 地区のPTAで何か目立ったご意見はありましたでしょうか。

< 佐々木委員 >

- ・ 宮守と達曽部の2カ所だけですが。
- ・ 地元という気持ちがあると思うので、ただ年度を押し毎に生徒また先生方また我々PTAに今までにない負担も十分予想されますが、PTAとしても是非今までの活動とは違った活動でバックアップしながら、情報ビジネス校から卒業させてあげたいというのが、大半の意見だと思います。

< 高橋議長 >

- ・ ここでフリーに意見を出していただければと思います。形態についてだけに最初限らせていただきます。どなたかご発言あれば。

< 阿部委員 >

- ・ 形態についてから少しはみ出てもよろしいですか。

< 高橋議長 >

- ・ 少しだけなら。

< 阿部委員 >

- ・ 募集停止はこの地区の過疎化に拍車をかけている。
- ・ 宮守駅は今駅員が1人いますが、情ビ校が無くなると駅員が居なくなる。
- ・ 何かにつけてそうゆう風になるわけですので非常に寂しい限りだなと、思うわけであります。
- ・ そうゆう意味からも、形態については少しでも子供の気持ち、今60何%と現れていますし、情報ビジネス科を希望して入った子供たちでありますから、志を果たさせて3年生の3月には、あそこの式場で送り出してあげたいものだということでもあります。

< 菊池委員 >

- ・ 先ほど子供たちの気持ちがわからなかったものですから 番という事にしましたが、ほとんどの生徒さんが 番を希望しているということですので訂正させていただきます。

< 及川委員 >

- ・ 確認ですが、形態の になった場合、たとえば制服は違う訳ですし、本校は普通科で教科書等も違ってくるわけですが、そういう部分はどのようになるのか。

< 鷹嘴課長 >

- ・ 万が一完全統合で来年の春からということになれば、教育課程・教科書も科が違うので二つの学科ができる形でやらざるを得ない
- ・ 制服とかいろんなものについては遠野高校という形になりますので、すべて本校にあわせることが出てくる。

< 高橋議長 >

- ・ の年次統合の場合の校名等についてはどうなりますか。

< 鷹嘴課長 >

- ・ 年次統合で有れば、募集停止にはなりますが、2年間は生徒がいらっしゃいますので、校名はそのまま、制服も現状のままとなります。

< 及川委員 >

- ・ 生徒達にとっては、 だと精神的な動揺があるにしても変化がすくなくてすむ。

< 佐々木委員 >

- ・ で進んだ場合 1 学年ずつ減る、それに伴って職員の数も減る。

< 課長 >

- ・ 当然標準のクラス数に対しての職員配置となるので減少していきます。
- ・ ただし、現在今年一杯で閉校する藤沢高校等、教職員課の人事担当の所管ですが、ある程度子供たちが困らない、胸を張ってやれるくらいのサポート体制をとるために、ある程度先生方を多めに配置していただいている。
- ・ 北上農業が統合して無くなる場合も同じような状況でやっていただいた。教職員課とつめます。出来るだけそうゆう体制を組めるように頑張っていきたい。

< 阿部委員 >

- ・ 本校には現在商業科はないですね、情報ビジネス科もないですか。

< 高橋議長 >

- ・ ありません。

< 阿部委員 >

- ・ 完全統合だとどうなるとおっしゃいましたか。

< 鷹嘴課長 >

- ・ 本校に情報ビジネス科を設置せざるを得ない。
- ・ 本校のキャパシティもある。教室も維持できるかとか、再度詰めなければならない。

< 阿部委員 >

- ・ 普通科と違って情報ビジネス科ですから様々なことがある。単純に定員いくらだからこうなるということ以外にも、あるいは本校から借りるとかの措置等も講じていただけるか。
- ・ 最後の年は何名しかいないので、先生は 4 人だとか、副校長も置かない等となるのではかわいそうだ。

< 鷹嘴課長 >

- ・ その辺につきましては現時点で藤沢高校には校長・副校長おいています。ある程度生徒達が困らないような授業展開が出来る体制を組んでいます。それが一つの先鞭となっていくと思っています。
- ・ あとは本校と分校の関係ですので、校長先生とご相談なのですが、行事などをやるときに先生方が不足・支障を来す場合も想定されますので、そうゆうときには本校から支援するような形とかいろいろ事が考えられます。

< 高橋議長 >

- ・ 最後の年は確かにかなり大変になると思います。

< 阿部委員 >

- ・ 先生が少ないから仕方ないとはおっしゃらないで、あと 2 年経つとまるっきりほんとに 4 人になったりするようなことだと、校長さんは 1 週間に 2・3 回は詰めるような気でないと。

< 高橋議長 >

- ・ わかりました。

< 佐々木委員 >

- ・ 人数の話も出たので、県側からは十分な人員を配置してある。しかし現場と P T A からは不足じゃないかという、あまりにも大きなギャップが生じないように是非十分対応してもらいたい。

< 鷹嘴課長 >

- ・ 教職員課に所管がございますので、教育長の方にも今のご意見をお伝えしながら、出来るだけのバックアップ体制をとれるようにしたいと思っています。

< 及川委員 >

- ・ 生徒の数が少なくなるわけですから、2 年後には 3 年生だけになります。どうしても寂しい。閉校というものを迎えて心の動きなどもあろうかと思しますので、先ほど P T A 会長さん方のおっしゃったところは全力上げて生徒達に思いを寄せながら指導に当たってもらいたい。

< 菊池委員 >

- ・ 情ビ校に入学した理由として、海外派遣があると思う。来年以降どうなるのか。

< 澤口委員 >

- ・ 昨年カシミア校から 27 名 9 月受け入れ、3 月に 14 名の生徒がカシミア高校に、引率合わせて 16 名で行きました。

- ・ 来年の3月にこちらからカシミヤ校に行く、募集を生徒へかけている。遠野市から振興協議会に国際交流費として50万ほど補助金をお願いをしている。市からは実施が決まれば補助金を出しますとの回答をいただいています。
- ・ 派遣は今年の3月で終わり、来年の9月にカシミヤ校から受け入れまで決まっている。そこまでは実施が決まっている。

<阿部委員>

- ・ 来年3月で留学の派遣は取りやめるのか。

<澤口委員>

- ・ 今の2年生は今年の3月に11名行っている。

<阿部委員>

- ・ 今の1年生に情ビ校の入学目的の一つに海外派遣が有ることで入学していたらどうなるのですか。

<澤口委員>

- ・ 1年は来年3月にいける。今希望をとっている。今年度行けば2年では出ないのかなと思う。

<阿部委員>

- ・ 再来年も行くとすれば出すと思いますよ。市では、やる限り出すと言っていた。

<澤口委員>

- ・ そこは検討ですが、1年は37名。行きたい人が10名出たとすれば、来年は出ないのかと思っている。その予定で申し出るように話をしていた。一学年だけなので、難しいのかなと考えています。

<阿部委員>

- ・ 2年生は行っている訳ですか。

<澤口委員>

- ・ 今の2年生は11名行っている。

<及川委員>

- ・ 本当は去年で海外事業は区切りにする。というお話もあった。
- ・ でも、一年生が入ったので、情報ビジネス校としての伝統といいますか、学校の特徴としてきたのですから、それで今年度も海外交流事業をやりたいということだ。
- ・ 市の方では海外派遣の部分では当初予算を取っていなかったのですが、私も振興会の総会に出席して会長さんからそういう計画があるということで、支援のご希望も総会の時にお話を受けた。
- ・ そこで持ち帰って、振興会としても今年の事業としてやりたいという考えがあるということで、担当の方にも伝えて、それに沿った形で支援をしていこうとなった。
- ・ 海外留学については、今の在校生についてはチャンスが与えられたと思う。

<阿部委員>

- ・ 情報ビジネス校振興会はどうなるのか。こちらの方への補助とか支援については教育長いかなものか。存続するまでは、情ビの振興協議会は続けてよいし、補助していただけるか。

<及川委員>

- ・ 会長さんが解散しない限りは続くでしょうから、情報ビジネス校が存在する限りにおいて、出来る限り、市の方でも振興会が存在するのであれば支援する事が一番いいのではないかと考える。

<阿部委員>

- ・ ありがたいお話だ。
- ・ 県の課長さんによく覚えていただきたいのですが、ずっと長くこうゆう形で、宮守村が乏しい財源を裂いてかなり大きな額を県立高校である情ビ校に補助し続けてきた。村長始め議会もただ一人も反対もなく予算を裂いていただいて来た。合併をしてからも遠野市から支援を受けている。そうして続けている。
- ・ 昭和23年当初の話。役場で使う謄写版を生徒である私たちがもってきてたり、チョークをもらってきたり、背表紙をもらってきたりして作っていただいた学校であることを、是非教育長に伝えていただきたい。

<鷹嘴課長>

- ・ わかりました。

<高橋議長>

- ・ 本校のPTAの方からのご支援のお言葉が有ればありがたいのですが。

<萩野委員>

- ・ 多分、会長の思いは、去年から現会長が地元の高校を盛り上げようと言うことで、情報ビジネスさんと緑峰さんとうちの3校のPTAで連携して盛り上げましょうと、それぞれの学校にはそれぞれの特色・強みがある訳でそれをのばしていきたいということで進めてきただけに、複雑な思いがあるのではないかと考えている。私にもある。
- ・ 統合形態については今の場ではあえて申さなかったのですが、一番地元が良い、納得する形で進めていただきたいですし、本校としてもできる限りの協力をしたい。

<高橋議長>

- ・ 統合形態の決定。場の雰囲気から考えてみますと、一番の年次統合で現在の入っている高校で終わらせたいというようなご意見が強かったように思いますので、この会では決定する。
- ・ 一番の年次統合という形で、統合形態委員会では意見をまとめたということにしたいと思います。大変ありがとうございました。

<佐々木委員>

- ・ そうゆう形態でまとまったということですので、先ほども申しましたとおり、年々生徒数は少なくなり今までとは違った形で、我々PTAの側からも高校さんへも県へも今までにない形のお願いや要望が出てくるのが十分予想されるので、ご協力を今後ともお願いします。

<高橋議長>

- ・ 再度、いろいろな形につきましてはこの形態の流れに沿って対応することになりますが、最大限の努力は払うということと、県からもご支援よろしくお願いいいたします。

(2) その他

<高橋議長>

- ・ 情報ビジネス校形態検討委員会は、形態を決定することが役目でしたので、委員会はこれで終了する。2回目3回目はもちません。終了を宣言します。大変ありがとうございました。
- ・ 私の司会進行はこれまでとします。

7 その他<澤口>

- ・ 事務局用意していない。県教委もなし。

<及川委員>

- ・ 形態は今日の委員会では結論に達した。県教委としてはこの後どのような手続きがあるのでしょうか。議会とか教育委員会議とか。

<鷹觜課長>

- ・ 今年は9月議会がまもなく開催。10月上旬に商工文教委員会で募集停止についての意見を伺い、10月15日に教育委員会規則の改正ということで正式に決定する。

<阿部委員>

- ・ 全国的な動向はどうでしょうか。高校改革ということで小さい学校はどんどん統合して無くなるような傾向になっているのかどうか。

<鷹觜課長>

- ・ 細かいデータはないが、一ついえることは全国的に少子化が進行しております。各県において高校改革として取り組んでいる。一つのベースになっているのは、理想的な学校の規模は、1学年4クラスから8クラス位が先生方の配置として教科指導の面、学校行事とか、好きな部活動がある程度やれるという環境で、都会のところではもっと大きな規模ですが、大半の県は4から8クラスの学校規模が一番理想的と掲げている。
- ・ 分校その他については、本県のように広いところ北海道のようなところもございますし、関東周辺の部分とか地域によって若干考え方が違っている。

<阿部委員>

- ・ 昭和23年の時の教育の機会均等を普及させていったときの考え方と全く逆のことですが、どんな山奥でも子供がいる限りはこちらの方から設置しますよということで、達磨部にも鱒沢にも宮守にも附馬牛にも呼びかけて作られてきた分校だった。
- ・ 今引き上げるときにはそのことに一言も触れず、合理的な面とか財政的な面とか、財政的な面は口には出して語ってはいないがそれが大きな問題かなと思うのですが、合理性の名の下に理想的な学級は4クラスあればいいとか、総合的に学べるとか言って小さい学校をつぶしていることになるのですが、できあがった小さな学校の何ができるか、小さい学校はどうあるべきかと言う教育論だったけれども、そのところは一つも語られないのがちょっと残念です。全国的な動きは分校がどんどんつぶれて、

もっと極端に生徒が少なくなって県に 1000 人しかいなくなったら盛岡に 1 校あればいいのか、そうゆう発想が非常に残念。

- ・ 50 人の学校もあれば 500 人の学校もあれば、たとえば 5 人の学校があるみたいのが教育の本論だと思っているので話しているのですが、全国的におしなべて岩手県がやっているように小さい学校は無くしようという動きがあるのかをお聞きしたかった。

<鷹嘴課長>

- ・ それぞれの県の実情で小さいから全部なくすというのではなく、地域を考えながらコンセンサスを得ながらやっているという現状でないでしょうか。
- ・ 一概に全部うちのようにルールを、いろんないきさつがあって作ったルールのようにですが、そうゆうふうなのに則ってやって進めるケースもあるでしょうし、地域と話し合いをしながらという場合もある。

<阿部委員>

- ・ 田野畑校はどうなるのでしょうか。

<鷹嘴課長>

- ・ 現時点で後期計画の中では平成 17 年から 21 年までの 5 カ年の計画を作っており、その中のルール作りをしている経緯があります。
- ・ 今回、田野畑校は定員の半数を満たした。地元からも 20 名中 16 名が入っていて過半数以上地元から入っている。2 年前に定めたルールをクリアしている。今後 2 年間は継続する。

<菊池委員>

- ・ 3 年後生徒は一人も居なくなる。同窓会の事務局はなくなる。本校で秋王会の事務局を一緒に扱ってもらえるか。

<高橋校長>

- ・ ここでは明言できない。検討しなければならないと思っていました。秋王会とは別のということですね。一致させるとか。

<菊池委員>

- ・ たまにはあるわけですよ。同窓生が集まってみたいとか、通知を出したり連絡したりが不可能になってしまう。考えてもらわないと大変なことになる。

<高橋校長>

- ・ そうですね、工夫するしかない。即答はできない。問題点はたくさん出てくると思います。ご意見を後で寄せていただければと思います。

8 閉会

<澤口委員>

- ・ 熱心な討議ありがとうございました。第 1 回情報ビジネス校統合形態検討委員会を終了いたします。どうもありがとうございました。